

第3回第4次日野市子ども読書活動推進計画策定委員会 議事要点録

日時 …… 令和元年9月27日（金）14：45～16：45

場所 …… 市役所506会議室

出席者 …… 委員14名（欠席2名）、事務局2名

配布資料

- ・資料1：第2回第4次日野市子ども読書活動推進計画策定委員会議事要点録
- ・資料2：第4次日野市子ども読書活動推進計画策定に関するアンケートまとめ（小学校）
- ・資料3：第4次日野市子ども読書活動推進計画策定に関するアンケートまとめ（中学校）

1. 開会

- ・欠席委員の確認

2. 第2回第4次日野市子ども読書活動推進計画策定委員会議事要点録について

- ・修正点の確認

3. 議題

(1) 〈小中学生〉の「第4次計画」取組検討

○検討の手法

- ・児童館・学童クラブ等の委員の所属していない部署の取組は、3月に実施した「事前調査」を確認する。
- ・小中学校の取組については、8月に小中学校所属の委員へ実施したアンケート（資料2・3）を参考に、重点項目の課題を確認し、第4次計画の取組を検討する。

【児童館】の取組

- ・児童館では、ゲームをしている子どもが多く見受けられる。本を読む子どもは少数。新しい本を揃えて置いたところで、読まないのではないかと感じる。本と子どもを繋ぐ人が必要に感じる。
- ・本の種類も重要である。楽しみに行く児童館へ、長時間読み込む必要がある本は向かない。図鑑や写真集、雑誌等、短時間でも楽しめる本を多く置き、蔵書を整えてはどうか。
- ・図書館からは、リサイクル資料として、ティーン向け雑誌を優先的に提供している。今後も継続して提供していく。
- ・子どもが児童館に来る目的に合わせた取組を継続する。

【学童クラブ】の取組

- ・育成の場として集う子どもたちが決まっており、宿題を終えた後や空き時間等で、読書を促す大人（指導員）がいる。今後も継続して、子どもたちと本を繋いでほしい。
- ・3年生が1年生に読み聞かせをしている事例もある。同世代による本の交流が生まれている。

【小中学校】の取組

《各学校の特色を生かした児童・生徒の読書活動の展開》について

小学校

- ・朝読・学級文庫等の各クラスの取組の内容は、担任によって差が生じている。
- ・本の読み聞かせを行い、積極的に本と子どもを触れさせる教員がいる一方、全く本を読まない教員もいる。教員によって差異があることは前提として、どのクラスでも本と積極的に触れ合える様、子どもと本を繋ぐ役割を持った学校司書が必要だと感じる。
- ・子どもと本を繋げるため、情報を教員同士で共有できる仕組みが必要である。
- ・小学4年生から6年生という、読書から離れやすい時期については、どこの学校でも子どもへアプローチをしている。どの様なアプローチを行っているか、どの様な効果があったか等、それぞれの取組を学校間・教員同士で情報共有できる様整えたい。

中学校

- ・中学校の朝の時間では、例えば朝読・朝学習を交互に行い、テストの前は自習をさせるといった、ルーティーンが出来上がっている。このまま継続して読書活動を展開していきたい。
- ・中学校における朝読は、本を読むことで心を落ち着かせてから授業に入るとい、生活指導の意味合いが強い。読書活動としての充実度も、今後向上させていきたい。

《読書の楽しさを同世代に発信する活動の展開》について

小学校

- ・小学校では、ビブリオバトルを楽しみにしている子どもが多くいる。
- ・幼少教研の図書館部員は、本の楽しさを発信する方法を取得し、実践している。教員の個々の力だけでなく、学校全体に本の楽しさを発信する方法を普及するため、情報共有を大切にしていきたい。

中学校

- ・読書感想文については、誰に読んでもらう感想かを曖昧にして強制的に書かせることで「読書嫌い」を生む可能性があり、評価が分かれる。
- ・図書委員会等、本が好きで自主的に動く子どもたちの活動を支援することで、読書の楽しさを発信していきたい。中学生と作家の交流事業等、今後も活動を継続して行っていく。

小学校・中学校

- ・読書感想文・読書感想画は、「本の楽しさを伝えたい」という本来の目的から逸脱してきている様に感じる。ポップ作成、本の帯作成等、子どもたちが読書の楽しさを発信する方法は多様性に富んでいる。第4次計画では、具体例としてそれらを内容に加えてはどうか。

《資料を使った課題解決の支援》について

- ・調べ学習は、どの学校でも行っている。学年によって、教員によって、取り組み内容に差がある。
- ・子どもたちが調べる内容は、一人ひとり異なる。子どもが立てた目標に応じて、資料の活用方法を指導しているのかも観点に置くべきである。
- ・教員による各教科の指導に加えて、資料の活用方法を教えるには司書教諭や学校司書が必要ではないか。

《学校図書館の蔵書の充実》について

- ・古い情報が掲載された資料が、所蔵されている。だが、新しい本は予算の関係で多くは購入できない。除籍・更新のバランスが難しい。
- ・学校司書や市政協力員と連携して、蔵書の管理を行う必要がある。
- ・除籍・購入は、学校図書館協議会（SLA）が出している選定基準を参考にしてはどうか。

《司書教諭研修会の開催》について

- ・司書教諭研修会は、引き続き開催していく。

《市政（学校図書館）協力員の円滑な連絡体制及び実務研修》について

《学校図書館の職務に従事する職員のあり方の検討》について

- ・市政協力員を対象にした研修会は毎年開催されている。
- ・学校司書については、今年度からモデル校として3校に配置された。まだ半年のため、継続して取り組みを見守っていきたい。
- ・常駐の学校司書がいることは、子どもたちが学校図書館に来るきっかけ、読書をするきっかけに繋がるのではないか。実際に、普段あまり本を読まない子へ、学校司書が本を紹介したところ、友人を連れて本を読みに来たという事例もあった。

【郷土資料館】の取組

- ・図書館と連携し、郷土資料の更なる活用を検討していきたい。

【発達支援課】の取組

- ・中学生への支援としては、「ひよっこり」（スクールソーシャルワーカーの教室）の活用を検討したい。

【図書館】の取組

《小中学生の読書活動の状況調査》について

- ・毎年行っている読書調査の結果から、子どもが関心を抱いている本は、絵本や小説等のフィクションだけでなく、ノンフィクション（科学もの・生きもの・乗りもの等）も高い割合を占めていることが分かる。今後子どもたちへ働きかける際、留意しておくと思う。

(2) 〈基本理念・基本方針〉の確認

- ・第3次計画の「基本理念・基本方針」の確認を行った。
- ・第4次計画の「基本理念・基本方針」は、次回の委員会で検討する。

6. その他（次回日程について）

- ・第4回策定委員会

令和元年10月30日（水）14時45分～16時45分 日野市役所506会議室

7. 閉会